

文化交流から育む国際教育



社会の国際化が加速しています。戦後のイラク復興支援、北朝鮮問題からプロ野球大リーグ、サッカー・ワールドカップ、インド洋大津波など。政治、事故、スポーツなどあらゆる分野で国の枠を超えたニュースが新聞、テレビを通じて伝わってきます。西宮市は帰国児童生徒受け入れ数が増え、約六十カ国の在日外国人が住む有数の国際都市でもあります。学校や幼稚園など教育現場では、約二十年前から国際教育に力を入れてきました。現状と今後の課題を追ってみました。

市立総合教育センター 研修課長 梅岡 己則さん

国際化社会に西宮市の教育現場はどのように対応し、今後、どんな目標を持っているのか。西宮市立総合教育センター(神祇官町)の梅岡己則研修課長(五)に聞きまわった。

これまでの国際教育のテーマは「まずは国際理解でした。西宮市はもとも帰国児童生徒の数が多く、二十年前ほど前から常に四百人前後で推移してきました。米国、次いで中国、シンガポール、オーストラリアからの帰国が多かったですね。一九八五年には文部省(当時)が

から『帰国子女教育受入推進地域』に指定され、国際理解教育に力が入っていきました。具体的には外国での生活が長い子どもを対象に『帰国子女教室』を開いたり、海外で習得してきた語学力が落ちないように、外国語学習も支援してきました。幼稚園や小・中学校では、帰国児童生徒から、ホームルームなどで海外経験を話してもらい、日本の子どもたちにとっても異文化理解が進んだと思います。また小学校の英語活動については、『総合的な学習の時間』が始まる前年の九九

日本人は受け身 課題は対話力向上

年に、外国語指導助手(ALT)を導入し、小学校九校に配置しました」

その後の課題は

「英語学習や外国文化への理解を進みました。しかし日本人の子どもたちが受け身という特徴が浮き彫りになりました。帰国児童生徒の保護者会の席で、『日本の子どもは自分の意見を表に出さず、周囲に意見を合わせますね』といった指摘もありました。日本の生徒は主張することをためらうんですね。そこで今度は日本人の生徒を対象に自分の意見をしっかりと、自分の国の文化を紹介できるような、積極的なコミュニケーション力向上が課題になりました。総合的な学習の時間を利用して、海外生活経験のある保護者、留学生らをゲストティーチャーに招き、外国文化を解説してもらった後に、日本文化を紹介する時間を設けました。こま回し、たこ揚げなど昔からの遊び、浴衣などの伝統的な衣類、あるいは寿司といった食べ物ですね。今後はどんな形で進めていくのですか

「国際化推進センター校

に指定されている甲陵中学校の校長などを中心に二〇〇一年四月、総合教育センター内に西宮市国際教育研究委員会を設立させました。メンバーは十九人で、国際教育の力キョラム作りや、授業の進め方などを議論し、教育現場に還元しています。英語だけでなく国語ならモゴルの民話、数学の面積計算には世界地図を利用するなど、教材面の工夫もしています。道徳の時間には

地域に住む外国人と学ぶ伝統

上ヶ原小学校・総合学習

「ファイニング N I H O N」

机に並べた百人一首の札を、留学中のインド人男性と日本人児童がのぞきこむように囲みます。隣では、番町(の)の三年生の教室。総合的な学習の授業「ファイニング N I H O N」が開かれています。外国文化を知るだけでなく、在日外国人に日本の伝統を紹介しようと企画されました。



ベルギー出身の女性に太鼓のたたき方を教える児童 = 上ヶ原小学校

呼び、それぞれの国を紹介してもらいます。キルギスやベルギーの習慣や町の様子など、異文化の話に児童は興味津々です。

次は児童が日本について紹介します。四グループに分かれ「日本の遊び」「日本の食物」などのテーマを設定。図書館やインターネットで詳しく調べ、どうしたらうまく伝えるかを自分たちで考えます。「声を大きく」「相手の目を見て。一カ月間、自分たちの思いを伝えようと努力しました。同小の校区は関西学院大学の留学生や、日本企業に勤務する外国人が多い町として知られています。その環境を生かし、七年前から近所の外国人と国際交流を深めてきました。

授業を担当した中田省治教諭(四)は「相手がどの国籍でも、根本的なコミュニケーションは同じ。それが分かれば言語や文化の違いも克服できるのではないのでしょうか」と話します。発表を終えた児童は「日本の昔の遊びってこんなに面白かったんだね」と、あらためて自分たちの国のことを学んだ様子でした。



中国出身・豊田さん

自分の意見述べ伝える事が大切

ゲストティーチャーとして招かれ、チャイナドレスを紹介しました。実際に女の子たちに着てもらい喜んでくれました。中国の文化を紹介するのは、小学生には「難しいかな」と思っていました。が、好奇心に満ちた表情で、真剣に聞いてくれました。子どもたちも日



ベルギー出身・アンさん

関心から始まる「尊重」と「理解」

現代社会は外国との交流が欠かせません。もちろん日本も同じです。私のような外国人がゲストティーチャーとして招かれるのは重要なことだと思います。交流というはお互いへの関心から始まると思います。それがお互いへの尊重、理解につながります。ほとんど